

第3章 都市像

札幌市の人口は、ここ数年のうちに減少に転じると見込まれています。少子高齢化の更なる進展により人口構造が変化し、2040年代には高齢者人口が約4割となる見込みです。

このため、合計特殊出生率が希望出生率を下回り、また若年層の道外転出超過が続く状況を改善する「人口減少の緩和」に取り組むことはもとより、現役世代が「支える側」、高齢者が「支えられる側」という従来の考えを大きく転換し、年齢等を問わず誰もが多様性を尊重しながら、支え合うという考えのもと、人口構造の変化にも影響を受けない都市を目指す必要があります。

また、札幌市が持つ魅力は、北海道の自然や資源に支えられたものもあり、札幌市の発展は、北海道の発展と一体の関係にあります。

北海道や道内市町村においても人口減少の緩和に取り組んでいますが、全体としては既に減少局面に入っており、地域としての活力の低下も懸念されるどころです。また、直近では、新型コロナウイルス感染症の世界的流行による被害・影響も受けているところでは、

このため、札幌市は、道都として北海道全体の発展を引き続き意識し、雪まつりやアジア初の冬季五輪開催などの世界に誇れるプロジェクトを成功させてきた、札幌ならではの感性と創造性を十分に生かしながら、コロナ禍によって加速する社会変革にも果敢に挑戦し、躍動し続ける都市を目指す必要があります。

以上から、次の時代においても、札幌市が目指すべき都市像として「互いに手を携え、心豊かにつながる共生のまち」と「北海道の未来を創造し、世界が憧れるまち」を掲げます。

【都市像】

互いに手を携え、
心豊かにつながる
共生のまち

北海道の未来を
創造し、世界が
憧れるまち

（審議会用補足）

- 現戦略ビジョンの都市像を踏襲しつつ、「支える側」と「支えられる側」に二分されるという従来の考えを大きく転換していく必要から、より人に着目した「互いに手を携え、心豊かにつながる共生のまち」を先に掲げる。
- 現戦略ビジョンで都市像とともに掲載していた、まちづくりの方向性（環境負荷の軽減等）や、推進に当たった姿勢・手法（道内市町村との連携）などは、第4章「まちづくりの基本目標」又は第5章「都市像の実現及び基本目標の達成に向けて」において整理する。